夕刊
磐城新聞
八月九日發行
定價　一ヶ月金六拾錢　一部金五錢（郵税拾五錢）
廣告料金　普通欄金六拾錢　擴報欄金九拾錢　五號十二字詰一行一回（場所指定一行青錢増）
編輯印刷兼發行人　柏木衍
發行所　磐城町平町字　磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）

悩める者の手記　五

（此の一編を亡きMの墓前に送る）

前田勝江

たとひ惡夢であるにしろ
愛する彼の夢ならば
うれしきものを見させ給へと
夜やすむとき祈る私の心をば
あゝ彼はよもや知るまじ

思ふまい、思ふまいとしてやつぱり自分の腦裡にからみついてはなれまいお前の面影……あゝ私は狂亂しさうだ、誰も居ないとかならずお前の名を呼びつゞけて氣狂の様に狂ふ。頭の毛を掻きむしつて考へるけれど、やつぱり何の役にも立ちやしない。昨日から今日に續けて頭がいたみ通し遂々床に着いてしまつた。お前の夢が目さいつむれば私の目に映る、うれしいけれどもそれは皆々よ冷淡な夢ばかりで尚更私の心は苦しめられる、思ひつめて病氣になるなんてよく活動寫眞などで見るけれど、そんな馬鹿な事があるものかと馬鹿にして居た自分が……お前のために弱い心になろうとは思ふまいと心に誓つた自分がやつぱり駄目なのだ。あゝ誠哉、誠哉もう一度もとの技にもどつておくれと狂亂した私の口からはしり出るのだ

幾度か呼びて答へぬ

それだのに暫くして振りむいたけれどやつぱり泣いてしまつた

友達四人で來たのを二人を先に歸してしまひ、家に歸つてから叱られる事も知つて居ながらもお前に會ひたくて（友達からお前が來てゐると言ふ事を聞いたもんだから、うその様に思つてならなかつたけど）一生懸命さがして歩いてやつと見付つたしかし私は何と言つてお前の傍へ行つたらよいかわからなかつた。勿論お前から來る様な事はなかろうと思つては居たけれど……それでも何か言はうかと思つて居たら、もうお前の姿は私の傍にはなかつた

あゝ私は、私はたまらない、あの時私の氣持は一寸發狂した様な變な氣持だつた。せめてお前の姿だけでも見て歸らうと思つてT子と共にさがしたけれど何處にも居やしない

いた時はもうお前の姿を見る事が出來なかつた。なんと言ふお前なんだろう。私は泣いた、T子の前でなるべくなきたくなかつたけれど、とう／＼泣いてしまつた。泣くまい、泣くまいとしつかり居をかみしめてゐ

つし給の、ひしといだきて我涙せり

T子と二人で居た時きつとお前は見て居たはずだ。

本社主催太田水穂氏御夫妻歡迎短歌會詠草

（欠席者の分）

永戸　荻野久良

○潮靜かうら／＼かゝる釣舟を、ますろ濱邊に日はくれんとす

○窓近く月は入れども友は來ず、かくて今宵もひとりねやせん

長瀬保貞

○荒磯や寄せつ戻りつくり返し、玉と碎くる潮の雄々しき

大方竹羊

○此の夏の一と日嬉しく潮風を受けて、我が身はいたく燒けたり

○朝顏のつるは伸びたり此の窓に、明日はとゞきて花開くらし

草野喜代

○硝子戸の外は海なり舟へりに、白くくだけてうちよする波

潮聲硯靜抄帳

雜詠當季　天野雨山選

裁板に吹く朝風や更衣　秀勝
繪日傘を水にうつせるボートかな
衣更へて椅子滑かに凭れけり　芳月
夕風の屋根へ垂れたる幟かな
日曜の子も手傳して井戸浚へ　直砂
こぼれ蒔種子何やら芽萠そめにけり　常
外風呂に吊る灯の上の茂りかな
植うる田の水瀰々と湛えけり　文狂
灯を待つや螢飛びゐる草の闇　竹羊
晝餉とる木の下蔭や風薫る　城月

隨筆　初秋

大内正之介

（1）

さしも喧噪だつた蟬の聲も何時しか遠のいて、秋らしい色が、ひた／＼と迫つて來た。秋が來る毎に僕は獨歩を回顧する。獨歩全集に入つてゐない『要するに皆逝けるなり』――といふのがある。この詩は彼獨歩の[illegible]だつた秋のスウイート・サッドネスを歌つたものである。それは丁度ツルゲーネフの『あひゞき』――の中にある、くぬぎ林の闇を車がカラカラと快い音を立てゝ通るやうな響を與へる――卽ち冷たい、澄切つた、爽やかな秋の氣分を與へる詩である。獨歩は實に秋の詩人であつた

朝。家の土臺の下や草の蔭から聞えてくる虫の聲にじつと聞き入つてゐると、急に獨歩が戀しくなつて、本箱をあらげてみた。それから押入の中をくまなく探した。が、結局一冊も見當らなかつた。僕は淡い淋しさに似た物足らなさを感じながら、頰杖をしてブルジヨア感覺をおもむろに呼戻した

太陽の夏じみた光が、秋らしい風に磨滅されてゆき僕の倦怠感もそれに正比例して消滅していつた――がどうしても落着けない。春に手をつけた長篇小説の原稿と睨めつくらだけして日を暮した。少しムリだつたのか――テーマまけしたのかしら……。といふ心配がこびりついてきた。けれど來年の早春には『プロレタリア文學』に送れるだらう僕はこれを置土産にプロレタリア作家同盟を去らうと思つてゐる

僕がプロレタリア作家同盟に入つてから、はやいものでもう一年になる。其間何一つ出來なかつた自分の經路をかんがへてみる。

文學新聞が、作家同盟から發刊されたのは、去年の十月頃だつた。由來、約一ケ年に亘る、苦難の歴史――階級鬪爭の經歴をへて、いま亦、ファシズム文學勃興の難局に直面してゐる。今日――あれくらゐな階級的出版物を續けてゐるといふことは實に至難なことである。

鈴虫（一）

平二　大方勝義

まい子の／＼鈴虫は
歌を歌ふて鳴す鈴
何處へわすれて來たのやら
銀の小鈴を持ちません
鈴をわすれた、鈴虫わ
友の鈴虫りんりんと
銀の小鈴をふりながら
たのしく歌を歌ふ頃
木の葉ちらほら散る樹の
下で友虫歌ふ歌
沈んだ顔で聞いて居た。

8月10日

△井原西鶴歿す（元祿六）△黄海大海戰（明治三七）△九洲再び風水害大島の最大風速五十七米（昭和五）△小橋前文相へ無罪宣告（同六）△志賀遞信政務次官政府攻撃の聲明を出し辭表提出△富民協會の農業博物館竣工式擧行△スペイン、マドリドに帝政派の暴動起り市街戰で五十八名死傷（同七）

社會の今日

○

お堀ばたの夏の柳のもつれ髮、くしけづらうと來たか颱風　日下部あや子

睡蓮に風の流れる涼しさよ　芒趾

新刊紹介

△ローマ字八月號（一部二十錢、東京市麹町區丸の内三ノ一二ローマ字ひろめ會）

講談　劍火無情

津屋義人作　菅野祐作畫

（88）脱出の後（二）

田丸松子は父稲之右衛門が切なる精に、其身を危險地帯から遁れさせやうとする眞意とは知らず、唯父の命に背くまいとの孝心から漸く其命に服した

『左様なれば仰せの通り、良人秋岡丹三郎を探し求め再び當山へ連れて參りませう程に、先づ夫迄は當山にて防戦を専らにお待ち下さいまするやうに……』

稲之右衛門も始めて安堵した

『オ、承知して與りやつたか、秋岡、田岡兩人の居所は、結城界隈であらうと思ふ。兩三日以前、結城の玉五郎を一應故郷へ引揚げさせたが玉五郎も領主に憎まれて居ること故、結城へは戻るまい。多くの乾児は結城より小山栃木さては宇都宮等に住んでをるから其等の縁合で問合せば何れは相判らうと思ふ。彼等俠客仲間を訪ねて見るが可い』

『ハイ私も左様に存じますそれに田岡様が僧侶の姿で奇抜な振舞のみ遊ばすゆゑ存外早く判らうかと存じまする』

尙父から種々なる訓戒と注意を受けて後、時子は身輕の扮裝で彼の古井戸の内へ入り、窃に浦太夫に對面した時は、もう秋岡、田岡が立去つた後であつた

松子の言ふ所を聞いた浦太夫は思はず舌打して

『殘念な事でありました。昨日別盃を酌んで、御兩所には夜中遲く當家を退散致されました、落行く先は判りませんが一先づ宇都宮へ出で結城の玉五郎と落ち合ひ、那須野ヶ原から奥州白河で勤王の士を集め、仙臺より山形、米澤、酒田の諸藩士を語らひ、人數が整つたる節は當國へ取つて返して田丸殿や耕雲齋先生を助け、市川、朝比奈の徒を滅ぼすと、左様に被仰つてございました。詰まり水戸藩士のみでは到底王政復古の目的は達せられんに依つて他藩の後見に據るより外ないとの御意見でござりました。御面會なさらうとなら急いで宇都宮の御城下で俠客の家をお訪ねになつたなら、必ず知れやうと存じます。ナーニ世間に顔の廣い玉五郎さんの事ゆゑ、直ぐ居所は仲間で判りませう。だが貴女が此殿重な敵の圍みを脱け出す事は、大分危ない仕事ですぞ。誰か私共の下男でも附けて、百姓の娘といふ事にして脱け出すやうにして上げませうか』

豫て松子の事は、浦太夫も噂で知つてはゐるものゝ若い女のこと故、不安に思つて注意したが、松子はなまじの男子より氣強い

『有難う存じますが、高の知れた朝比奈勢、別段危險とは存じません。此儘で圍みの中を通ります。』

大膽な此一言に、浦太夫も舌を卷いて、驚愕の外はなかつた。

松子は厚意を謝して此家を出たは其日の朝、涼しい秋の木の間隱れに筑波山の麓を西へ北へと進んだ

大川と云ふ小字の村の土橋へ差しかゝつた時、バラ／＼と十人許りの朝比奈勢立ち現れた

『待て女、待てと申すに』

聞こへぬ振して行き過ぎやうとするを、忽ち走つて其行手の方に一人の軍卒は廻つた

『怪しい女め、何故待てと止めるを肯かぬ、其方は聾か啞か』

初めて松子は答へた

『啞ちやありませんよ、聾なんですよ』

『ナニ聾だ、それにしては今申した事が、何うして聞へた』

『イ、エ、私のは勝手聾といつてね、良い事なら早く聞へるの、けれども惡い事だとちつとも聞へはしません』

『コリヤ、人を嘲弄致すか！』

『イ、エ失禮な、軍さ人を嘲弄なんかしやしません、けれども貴君方が、毎日毎晩ドン／＼大砲をお打ちなさるもんですから、それで耳がガン／＼して、到頭手勝聾にされて了つたのです』

『ア、言へば斯うじやと、ツベコベ申すな、して其方は何れの者で何れへ參るのか』

『ハイ私はお山の上、つく波權現の神主の娘、もうお山は水戸様の内輪喧嘩の爲に、私達のゐる所がなくなりました。夫故宇都宮の親類へ立退くんでござります』

『フーム神主の娘か』

町人百姓の娘でない、怪しむべき者でないと思つて其儘通さうとした時、一人松子の顔を見知る者が出て來た

御愛乘下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

金融
恩給年金
低利立替
軍人官吏其ノ他一般（教員巡査）モ速カニ御用立致シマス。御希望の方は表記へ御來談を乞ふ。
平町六丁目百〇壹番
鈴木龜雄

コロンビアレコード
傑作流行歌!!!
讀賣新聞社…懸賞當選歌
東京祭　葭町二三吉
及び
波路を越えて　松平晃
ガ發賣ニナリマシタ。御試聽ハ是非當店デ。
會田時計店
平　四　電話三六三

婦人子供ニモ簡易ニ修得出來る新時代的家庭副業（農林省推奬）
手袋製造機械金八拾圓（無料教授）
原料供給製品引取月賦販賣ノ方法アリ詳細乞御照會
坂本メリヤス工場
平町六丁目

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
（入院隨意）
增田耳鼻咽喉科醫院
電話四八二番

恐ろしい疫痢の流行期!!
○毎年六月始めより十月と申します。
○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。
まづ豫防に經口免疫の北里研究所製造疫痢内服ワクチンを
○價格　幼兒一人分三十錢　大人一人分五十錢
（文献進呈）
特約店　西村屋藥局
平　二・電　3

内外建築材建具材
入阿部材木店
磐城國平町（公園下）
電話四九四番

專門　一般内科
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井内科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

内臓外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

生徒募集
奥様方の爲め持に隨意科が設られてあります。
毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……
磐城女子洋裁專門學院
入學毎月初日
（此の際入學者は隨時入學を許可す）
ミシン無料貸與（材料皆與の方法あり）
平町白銀町十五番地
（詳細…學則郵券二錢）

耳鼻咽喉科專門
入院隨意
病室完備
平町田町七〇番地
醫學士　山内亨吉
山内醫院
電話六九一番

磐城共濟病院
電話六四一番　二二四番
内科　小兒科（院長醫學博士）石山謙郎
外科　皮膚性病科（副院長醫學士）有馬勇二郎
產婦人科（近日着任）
耳鼻咽喉科（醫學士）有馬勇二郎
X光線科（醫學博士）石山謙郎
物療科（技術員）石山彪
衛生試驗所（獸醫）高後利雄
藥局（藥局長藥劑師）吉本孝平
事務長　鈴木寶雄
△診療時刻　午前八時より午後五時迄

處方調劑の
藥局開設
最新藥完備
調劑迅速
藥價低廉
深谷藥局
四倉町新町
電二八

新盆用戒名入提灯
技術本意安値自慢……!!
大小共何卒御註文の程御願致ます。
金子提灯店
平町才槌小路

尚ほ研究の要ありと 決定に大事をとる町會

第四校敷地の前途如何

平町會は今十日午前十一時から開催、高利債借換、飯野八幡神社手洗水給水、第三小學校職員の自轉車一臺寄附採納其他を附議後第四小學校敷地買收交渉委員長吉田五平氏から

敷地一萬四千六百六十六坪に對し豫定價格を三萬七千六百六十四圓と定め會員を五班に分け地主小野園次郎氏外二十四名に交渉を重ねたるも地主の大半の意嚮を綜合すれば同方面は將來市街地として發展性ある爲め學校敷地として占用する事は今後本町の進展を阻害する憂あり故に豫定敷地を南方に變更すべしの意見を有し地價其他の關係上交渉頗る困難な爲め愼重協議の結果、今後の發展性を有する豫定地を市街地として活用すべく地價及埋立費輕減、高壓線の移轉に依る危險除去及古川改修に伴ふ水害除去の可能、將來近接村併合の際に於ても內鄕及飯野兩村一部からの通學上便利である等の理由から永遠の都市計劃に現在豫定地の南方に變更すべく委員會で決定した

旨經過報告あり尚ほ愼重研究の餘地ありとし以上に止め零時半閉會した

平區長會議

明日の協議事項

平區長會は明十日午前十時より町會議事堂で開催靑沼町長から

町の事務は近時著しく繁劇を加へ昨年以來土木匡救事業施行、失業者登錄救護法實施、出征軍人及家族慰問救濟其他社會的施設事項の增加と法令の改正に伴ふ諸般の調査等區內に周知を要し出來得る限り事務の簡捷と衆庶の利便を圖り平町將來の爲め協力一致盡瘁され度旨の挨拶あつて左記諸案を協議す

法令其他周知、汚物掃除傳染病豫防、貧困者救療

各種願屆勵行、納税改善士木匡救排水測溝工事、道路溝渠堤塘敷に接近する工作物建設、米生産調査、縣會議員補欠選擧、區費整理決算其他

植田高萩間各町村野球

植田町靑年團主催、植田—高萩間各町村對抗軟式野球大會は十八日午前十時から同小學校庭で行ふが各町村から多數參加盛況を期待されてゐる

近代國防の一壯擧 防空大演習見學

平消防組員けふ上京

今九日より三日間行はるる關東地方大防空演習に就て右演習は實に劃期的變革を來せる近代國防の一新現象を來せる緊要となつたもので將來有事の場合に於ける消防組の活動にも大なる關係がある處から平消防組では酒井伍長以下九名の一行が今九日上京上野山下館に滯在具さに演習の實況を見學する事となつた

平第二校で 偉人祭

平第二校では鄕土室用として過般來安藤、大越、澤村三偉人の石像を作製中であつたが愈々今月中に出來上るので來る十月八日安藤公命日をトして偉人祭を催す事になつた

投槍

投書歡迎

再言一束。

○いはゆる原敬の『白馬に非ず』式な詭辯で常識を超脫した小佛君の自己辯解は頗るへうきんで近ごろ愉快な話だが、一体君としては定型律短歌作者の自由律批評を畑違ひだと批難する論據を具体的に示すのが目下の急務であつて、ユーモラスな御本名のことは枝葉末節に過ぎぬ。學問的?に言つても亦君自身としても、空漠な罵言を弄して君の人格を危ぶまれるよりは寧ろ得策であるまいか。

○一方、冷眼君も折角の問題の焦點をボヤ然としてしまつて、えゝ氣嫌でロウパシンを振り廻しチチンプイ〳〵のナンセンスじみた言論戰とかを只一筋に提唱するばかりだが、これとて一旦磐新にやれと言つておいて『實は俺がやりてえンだ』とはあンまり見上げた圖でなかつた。君も短歌は理論鬪爭でないとお解りならば俳句でも詩でも同じこと、ガヤガヤ集まつたとて哲學や天文學は私にもわからない。君はどういふ人か知らないが春の霞のやうなアタマで生意氣なことを云ふのはまだ早い。險存なタンカは物笑ひの種だ。

○いろ〳〵言合つたが茲で申上げておきたいのは理論の行方といふ事である。世の中には辛辣な皮肉や煽情的な言葉に操られて、文章の內容を見究めず問題の焦點も把握せず只癇癖的に口を出してみたくなる靑年が往々ある。これがいはゆる田舍靑生の泥仕合であつて、かういふ徒輩を黄嘴の徒と謂ひ、かういふ問答をラッキョ問答と謂ふ。

○口舌は身を誤まる基、お互ひに自戒したいものである。（白木英尾）

磐中の水泳選手 關東北大會出場

必勝を期し猛練習

此程仙臺で開かれた大會に優秀な成績を收めた磐中水泳部では來る十三日は磐炭プールに於て磐炭と來月十日は更に水中プールで催される關東北中等學校大會に出場する事に決定したが種目は、百、二百、四百、八百の各自由型、二百米ブレスト、百米バックで志賀、澁谷兩君の外選手五名は新任中柴敎諭コーチの下に猛練習を續けて居る

◦◦◦◦水泳部長異動　磐中水泳部長としてプール開設以來五ヶ年間指導に當つた鈴木寅之丞敎諭は今般都合上引退後任として中柴光泰氏が就任した

昨年の最高には劣るが 平均暑熱が甚しかつた

きのふの立秋に農試の觀測

立秋も過ぎて耐え難い酷暑もはや峠を越したが神谷農試分場の調査に依る今夏最高溫度は去月廿六日の三十三度七(華氏九十二度六六)で昨年は三十六度六(九十七度八八)であつたがこれは僅か二三日中で通じて見れば今年は比較的暑かつたので米の增收は勿論其他農作物にも好影響を齎したものであると語つて居る

贊成調印が纏らず 存廢未定の木炭組合

解決迄には尚ほ曲折

目下二千二百三十二名の組合員より解散贊成調印を取纏めつゝある濱三郡木炭同業組合今九日迄の同意書は石城五十八、双葉二十六、相馬三十二、合計百十六通で全體の僅か二十分一に過ぎず最初の豫想に反し一向に進捗せぬ一方最初から解散絕對反對を唱へて居る縣でも極力之が存續を希望して居るので未だに存廢の分岐點をさまよつてゐる

立木公賣好績

平營林署管內永戶、三坂、川前小川方部山林の立木公賣は昨八日午前七時から一齊に執行四百名の希望者あつた餘が結局落札二十六口總額六萬七千圓非常な好成績で不落札無く前回の分迄全部落札した

◦◦◦◦如來寺境內緣日　四倉町如來寺境內の十九夜祭典は今九日又同所弘法大師祭典は來る廿一日何れも執行

紹介所 成績良好

平職業紹介所七月中の取扱成績は求人男五九、女二四、計八三、求職男七六、女二一、計九七、就職男四九、女一四、計六三名で六月に比し求人四十一名求職二六の何れも減少であるが前年同期よりは求人三

磐女水泳終了

去る一日から久の濱で開いた磐女校水泳講習會は昨八日で終了した

◦◦◦◦小林氏福銀へ　泉村小林七郎(磐中二十五回)氏は今般農工銀行福島支店勤務となり今九日午前九時平郡線で出發した

凉快の四倉から

—平第一臨海學校通信(7)—

陰鬱な々も晴れて、すが〳〵しい朝が訪れた、眞赤な太陽が海に浮む頃、吾々は何時もの様に濱でラヂオ体操をし新鮮な空氣を呼吸しながら汀を散歩した。今日は充分に燒からう、餘すところ明日一日だ、眞黑になつて驚かしてやろう皆々元氣一ぱいで午前の水泳も終つた。

×

午後は四ッ倉小學校第六學年生と一時より濱に於て野球試合をなすことになつてゐる、燒けた砂の上で酷暑にさらされながら、而も我校のために戰ふのである我々もぢつとしては居られない、一同は應援に行く

さすが挑戰を申し込んだだけあつてコントロールのある、スピードボールにて攻めて來た、然し吾チームはこれをよく選びよく打つた二時半見事なスコアにて吾チームが大勝した

選手並に兩校の得點左の如し

P	井上
C	太田
1B	山崎
2B	山浦
3B	齊藤
SS	友部
LF	菅田
CH	關內
RF	吉田

	平	四ッ倉
	0	3
	4	0
	2	0
	2	0
	3	2
	11	5

×

七日の間吾々は水に入つては照され、砂をあびては水に入り又照される、幾度か繰返された結果身体は赤銅の様である。今日はその黑ンボー大會を海濱にて開き先生方が審査された。その結果芽出度入賞した人々にはそれ〴〵クロンボー賞の賞狀を授與された

尋五 1堀江直 2鈴木晉平 3金子博 4水野皓一 5五小野勝三

尋六 1野崎文彥 2後藤章 3猪狩悌次 4菅田勝之 5小坂隆造

高等科 1齊藤常吉 2井上朗 3宮本正

×

臨海學校最後の晩である夕食はライスカレーの御馳走で腹をふくらし、夜は茶話會で思ひ〳〵の感想やら餘興やらで意義ある最後の夜の眠りに入る。

不景氣擊碎の 爆藥使用高增加

匡救事業等に因る現象

平署管內一月以降六月末迄上半期中の火藥消費高は火藥一七三貫三〇〇匁、爆藥一、四五二貫五四二匁、導火線一四五、〇一九尺、火工品九二、五三〇個で匡救土木事業其他の土木工事と最近頓に有卦に入つた炭鑛方面の使用が增加した爲昨年同期より一割二分三年前より約四割の激增である

◦◦◦◦海面漸く凪ぐ　四倉海水浴場は數日來土用波の爲水泳を危ぶまれてゐたが今九日朝頃から漸次平靜に歸しつゝある

◦◦◦◦穀檢支所移轉　平土木監督所內に開設しあつた穀物檢查平支所は近く平驛前農業倉庫前に移轉する事に決定した

若松大尉露支駐在

愈々今月末出發

湯本町出身參謀本部員陸軍步兵大尉若松七郎氏は今回軍事研究の爲め中華民國及蘇聯邦に駐在する事に決定今月末渡支する、尚當分は北京止まり明年二月以降はラトブイヤリガ市に駐まると

平靑年團選手詮衡

來月十日磐中グラウンドに開かれる郡下靑年團對抗競技大會に平靑年團では今月下旬選手詮衡會を開くと

臨海生歸る

第一の八十三名 四倉海岸で一週間を送つた

平第一臨海學校生八十三名の一行は昨八日午後六時三十分着で日燒けの元氣滿ち〳〵た顏で歸平した

◦◦◦◦鐵道橋桁改良　平保線區管內各驛橋桁改良工事は近く請負入札費を決定順次着工することゝなり保線區で計畫を進めてゐる

◦◦◦◦大腿骨を折る　四倉町字本町魚屋鈴木善作(四二)は昨八日午後三時頃濱に魚買出しに行き誤つて舟の間に墜落左大腿骨を折つた

噓八百を並べて 巧な手附金詐欺

四犯男平署に捕はる

當時住所不定無職千葉市本町三丁目生れ窃盜前科四犯白井德藏(三六)は去月十六日窃盜で懲役二年六ヶ月を服役、宮城刑務所を出行後早々各地で詐欺、窃盜を働き去ル末郡內に流れ込み昨八日午後四時頃平町鎌田町伊藤金藏氏留守宅に至り出先で主人に價格三百圓の材木を賣つたと言葉巧に手附金五十圓を詐欺訴出に依り平署で直に檢擧し目下嚴重取調中である

判檢事著任

各方面を歷訪挨拶

福島豫備判事から平區に榮轉の香西景駿氏は昨八日午後三時五十三分、米澤から上席檢事清田一郎氏は同六時二十二分着で何れも關係者多數の出迎へを受け着任今九日各方面を歷訪新任の挨拶をのべたが兩氏は交々

「炭鑛地帶で事件の多い事は新聞を通じて知つて居りましたから精一ぱい研究致します」

と語つた、尚香西判事は檢事の同期で令閨は元平區檢事宮崎正己氏の令孃である

竹內判事赴任

若松區裁判所に榮轉の平區竹內正一氏は來る十一日午前九時で赴任する

◦◦横領◦　植田町本町居住錦村匡救工事監督員松本金作(四二)は昨年九月二十日より同十一月末日迄の湯本町川添長太郎(三三)の夜間設計料二十餘圓を横領したが川添から其後再三、再四穩かに濟ませるからと横領金の返還を迫つたが言を左右に托して埒明けないので此程植田署に告訴されたが松本は此の外にも同樣の事があるらしいと

十和田湖から

昨五日靑森市に於て開催せられたる東北辯護士會に出席を機とし靑森より自動車にて酸湯溫泉及大町桂月により有名なる蔦溫泉を經十和田湖探勝に立ち寄り申し候、流石は國立公園たる資格十二分なるを認め候。遙かに御繁盛を祈る

（十和田湖世界公園館にて千葉生）

◦隔離◦　平町六間門一八高橋ヨシ(三五)は昨八日猩紅熱と決定隔離された

平町慶弔錄

△出生　北目町九二飯野村中山諏訪下四一石山信雄氏四女曉子さん、鍛冶町二一谷口弘仁氏二女チエさん、新川町三一高野仁平氏五女文子さん、大工町一六ノ二渡邊三郎氏二男二郎君

△死亡　[illegible]町五七茨城縣久慈郡誉田村舟井五海野次男君(一)

舊六月十八日 木曜 新八月十日

戊申 赤口 建 奎宿

諸判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　理想のみ高くして實績の揚らぬ日努力なれ▲二黑の人　身心の動搖を防ぎ舊狀維持に勉むるが安全▲三碧の人　自重して事に當り我慾のみに馳すべからず▲四綠の人　耐忍して定業を守らば

福運自ら廻り來る日▲五黄の人　近くとも横道に入らば離路にて利りがたし▲六白の人　一時に利を見んとすれば却て損失あるべし▲七赤の人　一旦着手したる事は永續の覺悟にて進む吉▲八白の人　勞多くして功少なし人心和同を專一とせよ▲九紫の人　從來の努力は報ひられて目的の成就する日

養子中野谷雄儀豫て病氣の處藥石効無く去る五月五日鳥取縣の家に於て死去仕候間此段乍延引辱知各位に謹告仕候
當時子供等學業の關係上茶毘に附し埋葬延期罷在候處來る八月十日午後三時より四時迄福島縣平町大舘大寶寺に於て告別式を行ひ直に納骨可仕候　敬具
追て葬儀事務萬端同寺に於て取扱可申時節柄花輪、放鳥等御寄贈の儀は固く御辭退申上候
昭和八年八月一日
養父 中野浩忠
男 中野春[illegible]
親戚總代 井上茂作 藍田勝行 渡邊三郎 中野二郎
友人總代 金成遜 鈴木辰三郎 白井一郎 瀧川堯 赤塚寅之輔 市原卯太郎 淸水廣政 大場仙吉

味噌、醬油 酒、卸商 佐藤仲商店

松本苗木店 四倉驛前

四倉驛前 關彰四倉出張所

四倉藝妓屋組合

四倉信用購買販賣組合

四倉漁業組合 組合長 菅波末吉

四倉町役場 町長 新妻盛 助役 菅波千之助

暑中御伺 四倉醫師齒科醫 一同

松村醫院 院長 松村鐵郎 平町南町電一〇七

平町南町 增田耳鼻咽喉醫院 電話 四八二番